

# 令和3年度 第2回倉敷科学センター協議会 議事録

【日 時】令和4年3月5日（土）18：30～21：10

【会 場】科学センター研修室及びプラネタリウム

【出席委員】箕口会長、山田副会長、尾崎委員、中原委員、福田委員、原委員、高木委員、荻野委員、岡本委員

【欠席委員】江越委員

【事務局】三宅部長、三谷参事、藤田館長、三島主幹、石井主任、西村主任

【傍聴者】1人

## 1 開会

### (1) 挨拶

【事務局】まだお見えになつてない方がいらっしゃいますが、定刻が参りましたので、ただいまから、令和3年度第2回倉敷科学センター協議会を開催いたします。

私は、倉敷科学センター館長の藤田と申します。本日は全体の進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

まず会議の成立についてですが、倉敷科学センター条例施行規則第10条第6項の規定により、委員の半数以上の出席をもって成立いたします。今日現在、委員は10名で構成されておりまして、ただいま8名出席されていますので、会議は成立しております。

なお会議は原則公開ということで、本日は傍聴者が1名いらっしゃいます。

それでは、お手元にお配りしております協議会要項に従って進めて参ります。まず、会議に先立ち、教育委員会を代表いたしまして、生涯学習部長の三宅が御挨拶申し上げます。

【部長】本日は御多忙の中、このような遅い時間に御参加いただきありがとうございます。コロナ禍の中で、昨年から同じような状況が続いております。科学センターしかり、美術館しかり、図書館、自然史博物館、公民館、いろんな生涯学習施設がいろんなイベントを企画しても、できなかつたり、中途半端に終わつたり、運営する職員も参加される皆さんもスッキリしない状況が続いておりますが、それでもなんとかできる範囲のことをやり繕りしながら運営を継続していくと頑張っております。今日も今年度の実績や来年度の計画をはじめ、来年度の夏休み企画展の選定や夏に上映開始する全天周映画の選定を御協議いただく予定です。4月からは普通に運営ができることを期待して計画を立てておりますので、どうぞ忌憚のない御意見をいただきますようよろしくお願ひいたします。

### (2) 委員紹介（名簿順に自己紹介）

### (3) 事務局紹介（自己紹介）

## 2 質問

【事務局】本日御協議いただく事業計画について、質問させていただきます。コロナ禍という状況でもあり、質問書については箕口会長に既にお渡ししておりますが、内容としてはお手元のレジュメにもあるとおり、次の2項目についてです。よろしくお願ひいたします。

（質問）「1 令和4年度夏休み企画展の選定について」

「2 令和4年7月期全天周映画上映作品の選定について」

## 3 報告・協議事項

【事務局】ここから議事進行を箕口会長さんにお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

（ここから箕口会長が議事を進行）

### （1）議事録署名人の選任

【会長】それでは、議事を進行させていただきます。皆様よろしくお願ひいたします。まず、本日の議事録署名人を2名選任したいと思います。いかがでしょうか。

【特に意見なし】

【会長】自薦がないようでしたら、私の方で指名させていただいてよろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会長】それでは、中原委員さんと原委員さんにお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会長】それでは、お二方、中原委員さんと原委員さん、よろしくお願ひいたします。

(2) 【報告1】「令和3年度事業報告について」

(3) 【報告2】「令和4年度事業計画について」

【会長】はい。それでは議事の方を進めさせていただきたいと思います。

まずは「報告1」の「令和3年度事業報告について」と併せて「報告2」の「令和4年度事業計画について」を進めさせていただきます。

【事務局】はい。報告事項についてですが、時間の都合で資料を予め委員の皆様に送付し、事前に目を通してくださいました上で、本日この協議会の場で御質問を伺うこととしておりました。

令和3年度の事業報告については、事前送付が1月末時点の実績でしたので、2月末時点の資料に置き換えるつもりでしたが、2月4日から臨時休館が続いており、実質3日分の実績の追加のみとなっております。「資料1-1」の来館者集計表を御覧いただくと、2月は科学展示室が30人、宇宙劇場（プラネタリウム）が3人の計33人の増となっております。

1枚はぐって「資料1-2の2」の「月別入館者」を御覧いただくと、2月3日までの時点で、前年度1年間の実績をすでに上回っていることが分かります。特に7月、8月の夏休み期間中は、8月20日から9月30日まで臨時休館となったにも関わらず前年度を上回っております、これは前年度中止した夏休み企画展を今年度は開催できたということが一番の要因と思われます。

「資料1-2の3」の「利用者内訳」を御覧いただくと、学校団体も少し利用が戻りつつあるように見受けられます。ただ、「資料1-2の4」の「地域別学校・園団体」の内訳を見ると、市内校が横ばいなのに対して、市外校のうち特に県内の学校の利用が目立って増えているように見えます。実はコロナの影響で、修学旅行が県内の日帰り旅行に振替えられた学校が相当数増えた中で、倉敷科学センターを目的地の一つに加えた学校も増えたから、というのが実情のようとして、修学旅行なので予定が延期になっても可能な限り実施したいということで、例年なら閑散期に入る12月以降でも学校団体の利用が続いたということが、「資料1-2の1」の12月、1月の入館者増の状況にも結果として表れております。

次の「資料1-3」では「7」のたけのこ天文台を御覧いただくと、平成30年7月豪雨の影響による臨時休館から前年度2月に再開したばかりですが、今年度はコロナで科学センター同様に臨時休館した期間があったにしては、順調に利用者数が戻って来ている印象です。はぐっていただいた「資料2-1」から今年度の事業実績になります。

「資料2-1の1」の事業費内訳については、現段階では予算現額のみの表示しておりますが、年度末には改めて決算見込額を挙げる予定です。

臨時休館の期間が複数あったこともあり、「資料2-1の2」に新しく開館日数と休館日の内訳を挙げました。例年であれば300日余り開館しているところですが、2月末現在で、コロナにより111日もの間、臨時休館となる見込みです。

「資料2-1の3」から「資料2-2」については説明を省きます。

「資料2-3の6の(2)」の「特別企画」を御覧いただくと、不特定多数の方が自由に行き来する、ライフパーク全館を使うような大型イベントについて、軒並み中止としています。

以下「資料2-3」については説明を省略いたします。

来年度の計画について「資料3-1」から御覧ください。

数字については、「資料3-1の2」の「利用者数」の165,000人を始め、コロナが無かったものとしての目標値だと思ってください。

以下、「資料3-1の3の(1)」プラネタリウム番組は、例年どおり年間3本の新番組を制作しますし、「資料3-1の3の(2)」の全天周映画もこのあと協議いただきますが、例年どおり年間3本の新番組を上映する予定です。

また「資料3-1の4の(1)」の夏休み企画展についても、同じくこのあとこの協議で選定いただき、開催する予定です。

「資料3-2」以降に記載の講座・イベント等についてもコロナが無かったものとして例年どおりの規模で計画をしております。以上です。

【会長】はい。「令和3年度事業報告」及び「令和4年度事業計画」について、何か御意見・御質問はございますか。

【特に自発的に発言を求める者なし】

【会長】ないようでしたら、お一人ずつ順番に委員の皆様に伺います。

【委員】どうしてもコロナの影響がまだまだ続きそうということと、なかなか先が見込めないというところで、それこそ親としては早くコロナが収まって、また皆さんのが来られるようになればいいな、と思っています。予算のこととか来年度の事業計画の内容については、このままで良いと思います。

【会長】ありがとうございます。次の委員、お願いします。

【委員】コロナの影響で現在、全館休館ということなんですね。プラネタリウムだけ開けるという意見はあったんでしょうか。

【事務局】そういう運用をされている施設も全国にはあるんですけども、今の第6波の感染が特に小学生以下に広がっているという状況があって、科学館のように、まさに小学生以下が集まるような施設は全て休館するというのが、今回の市の防災対策の方針のようです。

【会長】ありがとうございます。次の委員、いかがでしょう。

【委員】私からは、特にございません。よろしくお願ひいたします。

【会長】ありがとうございます。次の委員、何かございますか。

【委員】コロナのことは先が見通せないので、来年度コロナが収まった想定で事業計画を立てるのは仕方ないかな、とは思うんですが、ただ、ずっと思っているのが夏休み企画展の委託料300万円ですね。開館以来、どれくらいの予算額で推移をしているのか。

【事務局】ほぼ変わっていないですね。

【委員】もう20年変わっていないという。物価の上昇等も考えて、そして今、運搬がかなりしんどくなっていますよね、ランニングコストが高くなってきていて。そういう状況の中でですね、基本的には予算取りは前年度ベースというのが行政の基本だとは思うんですけども、そればかりではうまくいかないものもありますよね。20年、30年変わっ

ていないというのは、科学センターだけではどうにもならないことだと思うので、やはりどこかで、ライフパーク全体、生涯学習部全体で、予算取りを考えていただく必要があるんじやないか。変わらない金額で企画展をやり続けていても、効果がないようなものしかできなくなってくるのであれば、その300万をかけることが、もったいないことになってしまうと思うんですよ。やるんならやるで、意味のあるものができる金額に予算を見合わせていかなければいけないんじゃないかな、と思いますが、いかがでしょうか。

【部長】私が着任してから3年が終わろうとしているんですが、イベントだけでなく展示室の中の物も、10年以上ずっと変わっています。展示内容を変えるのにも、相当な予算が必要になるということも聞いていますが、一方で予算は前年度ベースという考えもあります。そうは言っても、子どもたちに新しいものに触れさせようと思えば、新しい物を投入しなければならないというのは、ずっと言い続けているんですが、コロナの影響による歳入減もありますし、なかなか力及ばず、実現しないのが現状です。現場は現場で、予算のない中イベント事をなんとか工夫して楽しくできないかと、科学センター職員は頑張っていますし、そこをサポートしていくのが上の者の役割だとは思うんで、毎年言い続けていこうとは思っています。

【委員】科学センターでは、今やっている写真展なんかでも、何とかコストをかけずにできる物を増やしたり、JAXAと連携したり、いろいろ工夫はされているとは思うんですが、夏休みの企画展だけは、子どもたちのためにするものではないのかなあ、と思うので、他のところをできるだけ削ってでも、ここへ予算を増やしていくように、教育委員会の中でもいくらか協力をいただける空気ができるとありがたいな、と思います。良くしてくださっているのは分かるんですけど、議事録に残しておけば何らかの役に立つかなあと思って発言させていただきました。

【会長】どうもありがとうございました。では、次の委員の方、どうでしょうか。

【委員】私からは特にありません。お世話になります。ありがとうございます。

【会長】では、次の委員の方、お願いします。

【委員】今、予算の話が出たんですけど、20年間そのままということに逆にびっくりしております。本当に予算の査定は厳しくて、私たちの部署でも前年度ベースどころか、さらに削られているような状況です。ですから、ビルドばかりだとやっぱりお金がかかってしまいますので、スクラップも検討しながら、必要なところに、優先順位の高いところにお金をかけていただけたらと思いました。

【会長】どうもありがとうございます。では副会長、いかがですか。

【副会長】今、コロナの状況でしかたないかな、と思うんですけど、じゃあ日本中で今、何もしていないかというとそうでもなくて、例えば観光地であれば、今、このタイミングだからできる改定だとか、何がしかの活動をしています。

私は高校の生物の教員ですが、生徒たちに夏休みに博物館や科学館へ行くように言ったりして、倉敷という地域ベースで生徒たちに何らかの刺激を与えられたなら、と思っています。

そこで、どうやったらライフパーク倉敷に行く動機づけになるかな、というのを生徒たち

にインタビューしたんですが、まず、いつ頃行ったか、というと、幼稚園か小学校の時にパスポートを使って行った、と。ただ、あまり長い時間を過ごせなくて、隣に福田公園があるので、アスレチック的な遊具で遊んだりとか、ライフパークと行ったり来たりしながら過ごした、と言うんですね。自然の多い福田公園とのコラボで、例えば自然史博物館の学芸員を呼んで自然観察会をやるとか、何かしらファミリーで1日楽しめる場所になつたらいいな、と言うような意見が聞けて、なるほどな、と思いました。

私自身、ライフパーク倉敷ができる前にこの土地で幼少期を過ごしていて、ナマズやスッポンなどの生き物を捕まえたりして遊んだ記憶があって、先ほど予算が厳しいと言うような話もありましたが、なるべく予算をかけなくてもいいので、用水や田んぼにすむ生き物を捕まえて直に触れるとか、インタラクティブな体験活動もできたらいいんじゃないかな、と思っています。コロナが終息して、科学センターの活動も何か変わったな、ということがあって良いのではないかと思いますので、よろしくお願ひいたします。

【会長】ありがとうございます。いろいろ貴重な意見が出たと思います。私も何か予算をかけなくてもできる活動など、思いついたら御連絡しようと思います。それでは、御意見・御質問は出尽くしたということで、よろしいでしょうか。

#### 【全員異議なし】

【会長】それでは、「令和3年度事業報告」及び「令和4年度事業計画」については、認められたということとさせていただきます。

#### (4) 【協議2】「令和4年度夏休み企画展の選定について」(※予定の順番を変更)

【会長】次に「協議1」の「令和4年7月期全天周映画上映作品の選定について」ですが、遅れて見えられる委員さんが試写を見られなくなるので、先に「協議2」の「令和4年度夏休み企画展の選定について」を進めたいと思います。事務局からの説明をお願いします。

【事務局】「令和4年度夏休み企画展の選定について」御説明いたします。1枚物の「資料6」とカラー印刷の2つの提案資料が各1部ずつありますので、それらを参考に、選考をお願いします。

この夏の企画展については、今年の夏休みの7月16日から8月31日までの期間を予定しております。

選定の候補としては、いくつかの企画会社の提案や、今まで科学センターで実施した企画展の実施状況、また近隣施設での実施状況等を参考にしながら、事務局側で事前に二つの候補に絞らせていただきました。それぞれ仮のタイトルが『しかく・さっかく・まかふしぎ展』～驚き！ダマされ？笑顔になる科学体験！～(仮称)』と『科学捜査展』～○○街の事件簿～(仮称)』となっています。

まず、「しかく・さっかく・まかふしぎ展」について説明します。

こちらは『見る（視覚）』をテーマにした、多彩な錯視コンテンツです。最新の研究成果やコンテスト世界一の作品などクオリティの高い展示が並び、小さい子どもでも楽しめる分かりやすい展示を数多く体験できます。いくつか展示物を紹介します。

2枚目左上の『エイムズの部屋』はトリックアートでもお馴染みのコンテンツで、遠近法の効果で小さい子どもが大きな大人より大きく見えるものです。室内カメラで映し出されたモニターからも観覧でき、展示物内の密を避けながら楽しむ工夫もあります。

『トランプのたわむれ』というコンテンツはレプリカを預かっているので、モニターの方で確認してみてください。

（モニターで、ハートの形が4つ並ぶ立体模型を鏡に映す様子を見せる）

正面から見るとハートのマークが4つ並んで見えますが、後ろの鏡に映った形はトランプの4種類のマークに変わっています。こうした、通常では考えられないような不思議な感覚に陥る錯覚展示が、さまざまな種類で数多く会場に配置されます。

次に鏡を使った錯視の『魔法のテーブル』ですが、テーブルの真ん中から頭をのぞかせているのに、テーブルの下に胴体が見えないという、誰もがドキッとするような写真が撮影できる展示物です。

物をすばやく動かしたときに感じる「残像」を巧みに使った『ざんぞう棒』は、離れた2つの黒い箱の間で、棒をすばやく振ると、棒に文字や画像が映し出されるというものです。資料で手のひらのマークがついているこれらのコンテンツは、小さいお子さんから大人まで誰でも楽しめる体験型の展示となっています。

資料に乗りきらないほど豊富な錯覚コンテンツが用意されており、これらはどれも撮影・録画が可能です。科学トピックスとしてSNSなどで情報拡散していただくことで、より幅広い人たちへのPRになるのではないかとも考えています。

また、常設展示エリアで、コロナのために休止中の展示物のエリアにも展示スペースを広げ、常設展示の錯視コーナーと連携するような提案もいただいております。

続いて、もう一つの候補の『科学捜査展』について説明します。

テレビドラマやアニメ等でよく目にする科学捜査を体験できる企画展で、さまざまな科学技術を駆使して犯人の残した証拠や痕跡から事件を捜査する体験は、世代を問わず興味をそられるコンテンツとなっています。コロナ下での運用を想定して非接触の体験コンテンツが多いのも魅力です。他館での実績も豊富で、名探偵コナンの登場する全天周映画の番組とコラボして集客力を高めた実績もあります。それぞれの内容を見ていきます。

『空き巣現場捜査』は、侵入者が荒らした犯行現場で、目には見えない指紋や足跡などの痕跡をブラックライトで照らして探し当て、見つかった指紋・足跡と容疑者の特徴を比べて犯人を特定する、という科学捜査を体験できます。

『声紋鑑定所』は、一人ひとり違う特徴を持つ「声紋」を扱う捜査で、スピーカーから流れる加工された犯人の声と3人の容疑者の肉声を聴き比べ、同じ特徴を持つ声の犯人を特定

する、という科学捜査を体験できます。

『犯人の足跡をたどれ！』は、暗室の中に浮かび上がる複数の足跡から、犯人の足跡と一致するものを見つけ、制限時間内にできるだけ多く踏むことでポイントを集めるゲームです。

『逃走迷路』は、真っ暗な通路にブラックライトに照らされたいくつもの光るバーが垂れ下がっており、いくつかのバーには、触るとブザーが鳴って追跡中の犯人に追手が来ていることを知らせるという罠が仕掛けられています。その罠に触れないように、うまく犯人を追跡し、逃走迷路を脱け出すことができるか、というゲームです。感染症対策として、通路の中に同時にに入る人数の制限が必要ですが、外で待つ人も中の様子を見て楽しむことができるよう、通路の外に標準ビデオカメラと暗視ができる監視カメラのモニターが備えられ、密を回避できる仕組みも用意されています。

この他にも資料に載っているように数多くの展示物が用意されており、さまざまな科学捜査体験ができるようになっています。

夏休みは、来場者が一番多い期間で、特に家族連れで来られる方々が多いので、年齢を問わず楽しめるものを希望していますが、今回の2候補はいずれも条件を満たす良い企画だと思います。その中で、より一層、科学センターへ来るきっかけとなるような企画を選んでいただければと思っています。また残念ですが、今年の夏もおそらくコロナ禍での企画展となることが予想されます。人流の滞りにくいものや、密を避けて間隔を設けられるようなもの、また共用する道具を極力減らせるとか、消毒のこと等も踏まえて、この2案から選んでいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

【会長】それでは、委員の皆様に御協議をいただきます。どなたか令和3年度夏休み企画展について、御質問や御意見がありますでしょうか。

【特に自発的に発言を求める者なし】

【会長】御質問等がないようでしたら、お一人ずつ順番に委員の皆様に伺います。

【委員】2つの提案のうち、最初の『錯視』の方の内容は、個人としてもいろんなところで見たりしたことがあるので、体験したことのある方も多いのではないかと思いました。魔法のテーブルなども、トリックアート展などに行くとよく見かけますし、ちょっと新鮮味に欠ける気がします。もう一つの『科学捜査』は、けっこうテレビとかでも出てきたりしますし、プロジェクトマッピングのような形の体験型イベントも、コロナ禍での開催に配慮されて、他でも多くの方が来場しているとのことなので、そういうところも良いのではと思いました。内容も盛りだくさんと思えますし、コロナ対策も配慮されているということを書いていますので、『科学捜査展』の方が良いのではないかと思います。

【会長】ありがとうございます。次の委員、お願いします。

【委員】先ほどの委員さんと同じような印象です。『錯視』の方は、子ども受けは良さそうに思えましたが、「どこかで見たかな」という印象を持たれるかもしれないな、と思いました。

『科学捜査』の方は、少し難しい感じがしなくはないんですが、暗闇の中で遊ぶような子ども受けするコンテンツもありますし、こちらの方が良いかな、と思いました。

【会長】ありがとうございます。続いて、次の委員さんに伺います。

【委員】『科学捜査』の方がおもしろそうだな、と思いました。幼稚園の子どもたちでも、最初の『足跡さがし』に動物の足跡もあつたりしますし、なじみやすくて楽しめるな、と思いました。

【会長】ありがとうございます。次の委員さん、お願ひいたします。

【委員】『錯視』については、科学センターでは何度かやっているネタもあるし、例えば百貨店のイベントスペースでは、全然レベルが違うものが出てくるわけです。かけているお金が違いますから。ちょっと見劣りする感じのものしかできないんじゃないかな、と思ってします。『科学捜査』の方も、資料を見るとすごいものが来そうな感じがしますけれど、実際に来ると、そう大したことないレベルのものになっちゃうのかな、という気はしていますが、今までやっていないことをやってみる方が、子どもたちにとっては良いのではないか、とも思っています。ただ、コロナが続く中でやるとなると、人の動きの制御だと、いろいろとマンパワーが必要でしょうから、科学センターも大変だろうな、と心配もしまいますが、どちらが良いと言えば、『科学捜査』かな、と。

【会長】ありがとうございます。次の委員さん、お願ひいたします。

【委員】今伺ったところで、今までやっていない、目新しいということで、『科学捜査』かな、と思います。

【会長】ありがとうございます。次の委員さん、いかがでしょうか。

【委員】内容は『科学捜査』が魅力的に思えましたが、暗闇のコーナーが多いので、換気は心配です。それでも、『科学捜査』の方が良いかな、と思います。

【会長】ありがとうございます。換気が心配との意見が出ましたが、暗闇のコーナーなどの対策はいかがですか。

【事務局】この夏の『科学ニンジャ学校』も同じようなプロジェクトを使ったコンテンツがありましたが、通路にしろ限られたスペースにしろ、オープンスペースにはなっていますし、二酸化炭素濃度のセンサーも設置した上で、意図的にサーキュレーターや大型扇風機を回したりして換気の効果もチェックしていたので、特に密が気になって心配、という印象はありませんでした。同じような形で運用できそうなので、換気は大丈夫だろと思っています。

【副会長】皆さん『科学捜査』が良いという意見ですが、先ほど事務局の説明で一点気になつたのでお尋ねします。全天周映画とのコラボで集客力アップというような状況は、今回の選定いかんにより実現する可能性はあるんでしょうか。

【事務局】このあと試写を御覧いただきますが、今回の選定候補作品の中にはコラボできる作品はありません。

【副会長】そうなんですね。テレビドラマでも「科搜研」というのを耳にして、科学捜査に興味のある子どもたちは大勢いると思うので、私もこちらが良いかな、と思いますし、せっかくなら倉敷警察署とかにビラを配って協力を求めたりとか、知恵を絞って広報活動を展開し

てみても良いのではないかと思います。

【委 員】すみません。一点、よろしいですか。今聞いて気になったんですが、来年度以降にコラボの可能性があるのであれば、今回は取っておくという手もあると思います。また、コロナで大々的な集客は望めないだろうという見込みがあれば、あえて今回は控えめの方をやって、より良いものを次の年へ、可能性として残しておくという考え方もあるので、戦略的に科学センターがどう考えるかというところを伺いたいです。

【事務局】あえて言えば、今年の作品に救助犬をテーマにした作品がありますが。

【委 員】いえ、今年の話じゃなく、来年以降の話として、何か目ぼしいものがあるのならセットにするためにあえて取っておく方が良いのかもしれないし、そういう可能性も無いのなら、ここで良いものをやっておいた方が良い、ということです。

【事務局】今回いろんな企業から提案いただいた中で、コロナが終息して、全力でお客様をお迎えできる状態になれば、もっと良い企画が提案できるのだが、今はコロナ禍ででき得る内容として提案しているのだと聞いています。

【委 員】では、あえて今回取っておかなくても大丈夫、ということですか。

【事務局】大丈夫と思います。

【会 長】なるほど。では、私からも一つお伺いして良いですか。『錯視』の方は写真に撮ってSNSにアップできるとのことでしたが、『科学捜査』の方も、それは可能ですか。

【事務局】撮影できます。

【会 長】今どきはSNSに個人がアップすることで、一般の方がいわば広告塔みたいな役割を果たしています。例えばお店とかだったら、SNSに情報をアップしたら飲み物1杯プレゼントみたいなものがあったりしますし、このイベントを盛り上げるんであれば、科学センターも何か、別に大したものでなくて良いと思うんですが、何かあれば、「またSNSにあげようかな」という気持ちになってくれて、宣伝になるんじゃないかな、と思います。

【会 長】さて、一通り御意見を伺いましたので、そろそろ「令和4年度夏休み企画展」の選定についての結論を出したいと思いますが、先ほど来のお話だと、『科学捜査展』が良さそうということになりそうです。いかがでしょうか。

#### 【全員異議なし】

【会 長】ありがとうございます。特に異議なしということですので、「令和4年度夏休み企画展」については、「『科学捜査展』～○○街の事件簿～(仮称)」を賛成多数で選定されました。

#### (5) 【協議1】令和4年7月期全天周映画上映作品の選定について

【会 長】それでは、「協議1」の「令和4年7月期全天周映画上映作品の選定」に戻りまして、協議を行う前に試写を御覧いただくため、会場の移動をお願いいたします。

本日上映していただくのは、『スーパーパワードッグ』、『恐竜超世界 受け継がれるいのち』

の2本で、10分後に上映を予定しておりますので、移動をお願いしたいと思います。

【事務局】事務局の方で御案内いたします。貴重品のみお持ちいただきて、荷物はこのまま部屋に置いていただきて差し支えありません。

(プラネタリウムに移動)

(尾崎委員が到着)

—プラネタリウムで全天周映画候補作品試写を鑑賞—

(上映終了後、実験実習室に移動)

【会長】全天周映画上映作品について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】まずは長時間に渡りまして、2本の全天周映画を御覧いただき、ありがとうございます。

それでは、資料4-1「全天周映画上映作品の選定について」を御覧ください。  
全天周映画については、年間3本、7月と11月と3月に新作を上映することとしています。今回選定していただくのは、今年の7月から上映する作品です。

候補となる作品2本を先ほど観ていただきましたが、1枚ページをはぐって「資料4-2」の上側の表に、科学センター職員が事前に試写を観て評価した結果を載せておりまして、その上位2作品を御覧いただいたということです。

その評価の右寄りに星印を並べている部分がありますが、科学センター職員の評価として、内容が「子ども向け・ファミリー向け作品」なのか、あるいは「大人向けで科学性の高い作品」なのか、といった作品の傾向を示しています。

その次のページ「資料5」の「全天周映画の作品選定の基本的な考え方（ガイドライン）」を御覧ください。

上半分に表がありますが、この表で言うと、今週末までは作品ABC、すなわち『ごん』、『南極大陸 未知の世界へ』、『ボイジャー 終わりなき旅』を上映している期間になりますが、2月の初めから臨時休館になったため、『ごん』については繰り上げ終了としました。来週から上映再開できることとなりましたので、そこからは作品BCDの組合せとなります。今回選定していただく作品については、同時上映している『ボイジャー 終わりなき旅』や『しまじろうと おおきな き』との組み合わせについても考慮いただけたらと思います。

どちらの作品が、より科学センターで上映するのに相応しいか、御協議をお願いいたします。以上です。

【会長】ありがとうございます。それでは委員の皆様に御協議いただきたいと思います。どなたか、上映作品について、御意見、御質問等ございますでしょうか。

【特に自発的に発言を求める者なし】

【会長】無いようでしたら、お一人ずつ順番に御意見、御感想等をお伺いしたいと思います。

【委員】記憶があいまいなのですが、どちらも観たことがある気がして、後半の方の恐竜の映画はテレビで観たのか、すごく印象がありました。『スーパーパワードッグ』の方は、前回の協議会で観てありますし、その時は他にも特に目を引く作品があったということだったんですが、臨場感たっぷりで動きが激しいせいで、ちょっと酔いそうな場面もあって、少し気にはなったんですが、内容的にはすごくおもしろいですし、どちらかと言うと救助犬の働きについて考えていく意識付けと言うようなところがおもしろいな、と思いました。大学の教員をしておりまして、学生たちに就職・進路の意識付けというのは小学校低学年のうちから、ということで、いろんな仕事に興味をもってもらうような内容で、大学のインターンシップとかもやってはいるんですが、そういった意味で、科学的なところもあり、救助犬の仕事の流れ、先ほど決めた企画展の「科学捜査」の方も、内容的に近いところがあるのかなあ、と思いました。

後半の『恐竜超世界 受け継がれるいのち』は、どういったところに焦点を絞るのかなあ、というところで、科学的な内容で進化とか、そういうところをストーリー立てで見せてくれるので、話は入りやすいかな、と。胸打たれるような内容もあり、見やすくてきれいで興味の持てる内容だったと思います。どちらが良いか悩むところですが、どちらも良い作品だと思います。

【会長】ありがとうございます。では続きまして、次の委員の方、どうでしょうか。

【委員】どちらもすごく良かったです。『スーパーパワードッグ』の方は、動物と人とのつながりがすごく感じられて良かったと思いました。『恐竜超世界 受け継がれるいのち』の方も、すごく勉強になるな、と思いましたし、あとはどの年代に観てほしいのか、その辺が分かりかねるので、もう少し皆さんのお話を聞いてから判断してみようと思います。ありがとうございました。

【会長】ありがとうございます。次の委員の方、いかがでしょう。

【委員】両方おもしろかったんですけど、『スーパーパワードッグ』の方は、映像がアメリカとか世界に渡っていたので、コロナ禍で世界旅行とか行きにくいんで、そう言ったところではおもしろかったんですけど、ちょっと大人向けかなという印象がありました。動物好きなら観てくれるかな、と思いつつ、おもしろいんだけど、意外と子どもが期待して観てくれるかどうかは、ちょっとよく分からなかったです。

『恐竜超世界 受け継がれるいのち』の方は、うちは大学の方でモンゴルの恐竜はやってますんで、大学として宣伝に御協力できそうな印象ですし、監修にうちの恐竜博物館の館長さんの名前もクレジットされていますし、知り合いの先生方も多いというところもあるんですが、NHKテレビの特集番組で見たことがある、という印象もあるんで、どちらが良いか、甲乙つけがたいところです。

【会長】ありがとうございました。次の委員の方、いかがですか。

【委員】子どもが観るんだったら、私は恐竜の方がいいかな、と思いました。ただ、作品の意味とか内容とかで考えるときに、どちらがいいのかな、と。それぞれに作品の趣きとか狙いがあると思うんですけど、子どもたちが観るんだったら、『恐竜超世界 受け継がれるいのち』の方がいいかな、という印象です。

【会長】ありがとうございます。次の委員の方、いかがでしょうか。

【委員】私も、犬だと子どもたちがあまり反応しないんじゃないかな、という気がしたんですけど。恐竜の方は、今まで協議会で一度も試写したことがない作品ですか。

【事務局】そうです。以前プラネタリウムのリニューアルオープン時の作品に同じNHKの恐竜作品『ティラノサウルス』をやっているので、CGの雰囲気とか似ているところはあるかと思います。

【委員】私、「ニコの物語」というエピソードに記憶があって、あれ、これ観たな、と思って、協議会で観てないんだったら、たぶんテレビで観て記憶に残っていたんでしょう。と言うことは、「あ、これ観たな」という印象が来館者の中にどの程度あるか、気になるところはあるんですけど、いずれにしても子どもたちをターゲットにするんなら『恐竜超世界 受け継がれるいのち』の方かな、という気がします。

【会長】ありがとうございます。次の委員の方、いかがでしょう。

【委員】前の協議会で『スーパーパワードッグ』を御覧になった委員の方は、その時にもっと良い作品があったと言われて、なんで選から漏れたかな、と気になるところもあるんですけど、科学センターとして、恐竜の映画は定期的にあって欲しいな、という思いもあるので、私は『恐竜超世界 受け継がれるいのち』の方がいいな、と思いました。

【会長】ありがとうございます。次の委員の方、いかがでしょうか。

【委員】資料5の下の方に書いてある「3 選定の目安」の②に「集客力が期待できる作品」というのに「恐竜」が入っているのと、あと3作品の組み合わせで考えたときに、『しまじろうと おおきな き』は思いっきり子ども向けの作品だと思うんです。ですから選定作品はここまで子ども向けに寄せる必要がないんじゃないかなと思います。『ボイジャー 終わりなき旅』が大人向けということだったと思うので、資料4-2「総合評価ランキング」で示されている作品傾向が、子ども向け・ファミリー向け作品と大人向けの科学作品とのちょうど真ん中になっている『恐竜超世界 受け継がれるいのち』の方が、バランス的にも良いのかな、と思いました。

【会長】ありがとうございます。副会長、いかがですか。

【副会長】難しいですね。観た感じでは恐竜の方がいいかなと思うんですけど。犬の方はと言うと、世の中むしろ猫ブームなので、犬と言うよりも猫の方だと思ってしまって。あと、家族で観る映画を親御さんが選ぶとき、タイトルを見ることが多いと思うんで、そのとき一定数の方に「恐竜」というのは人気があるコンテンツだな、とも思っていますし、『しまじろうと おおきな き』と『ボイジャー 終わりなき旅』と並んだときに、どちらかと言えば、犬より恐竜の方かな、という印象を持っています。

【会長】『スーパーパワードッグ』の方は、以前確かに観たな、という覚えがあったんですが、気のせいか前より分かりやすくなっていたと思ったんですが、何か少し変更があったんでしょうか。

【事務局】前回の試写より分かりやすく再編集されているようですし、前回は3作品御覧いただいていたので、長時間の視聴による影響もあったかも知れません。

【会長】今日の方が、内容がスッと入ってくるような気がしました。あと、先ほど選定した夏休み企画展の「科学捜査」との抱き合せがあるのか、という話も合って、そういう視点で見れば、犬を使った追跡捜査というエピソードもあって、もしかしたら何か連携でうまく活かせられるのかな、というようなことも考えました。ただ、皆さんおっしゃられるように恐竜のインパクトは強くて、集客力を言うなら『恐竜超世界 受け継がれるいのち』なのかな、というような印象も持ちました。

【会長】ということで、一通り皆さんの御意見・御感想を伺ったところで、どちらが良いか決めたいと思うんですけれども、いかがでしょうか。意見としては恐竜の方を推す方が多かったように思います、ここは挙手で多数決を取らせていただこうと思います。

『恐竜超世界 受け継がれるいのち』の方が良いと思われる方、挙手をお願いします。

(7名挙手)

【会長】過半数以上の手が挙がりましたので、令和4年7月期から上映する全天周映画は『恐竜超世界 受け継がれるいのち』ということで、結論付けさせていただきます。

皆さん、よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会長】それでは予定の協議・報告事項全て終わりました。

他に協議事項等、ございますでしょうか。

【特に意見なし】

【会長】それでは最後に諮問に対する答申内容の確認です。

「令和4年度夏休み企画展」については、「『科学捜査展』～○○街の事件簿～(仮称)」を選定することとし、「令和4年7月期全天周映画上映作品の選定」については『恐竜超世界 受け継がれるいのち』を選定することとして、答申をさせていただきます。

皆さん、よろしいでしょうか。

【全員異議なし】

【会長】ありがとうございます。以上で、本日の協議事項・報告事項のすべてを終了しましたので、進行を事務局にお返しいたします。

(ここから事務局が進行)

【事務局】長時間に渡り、熱心な御協議をいただき、ありがとうございました。

以上で、令和4年度第1回倉敷科学センター協議会を閉会いたします。

令和4年3月5日

会長 箕口 けい子 

議事録署名人 中原 貴子 

議事録署名人 原 正男 